

JVCケンウッド 決算説明会

2013年(平成25年)3月期 第3四半期

株式会社JVCケンウッド

【資料中の略語】

CE : カーエレクトロニクス(事業)

PS : 業務用システム(事業)

COM: 無線機器(事業)

BS : ビジネスソリューション(事業)

HM : ホーム&モバイルエレクトロニクス(事業)

音響 : 音響機器(事業)

映像 : 映像機器(事業)

SE : エンタテインメント(事業)

2013年3月期 第3四半期決算概況

取締役 兼 CFO 藤田 聡

＊ SEが好調を持続したが、**為替影響(売上高・営業利益への影響と為替差損の発生)**、**欧州販売減少**などにより、減収減益。

(億円)

		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
3 Q累計	'13/3期	2,245	48	8	-14
	'12/3期	2,365	88	65	44
	前期比	△121 (△12)	△40 (△20)	△57 (△50)	△59 (△50)

※()は前年同期比での為替影響

3 Q	'13/3期	752	4	-21	-27
	'12/3期	787	19	1	-5
	前期比	△35	△14	△22	△22

【営業利益】

- * 当社では、対米ドル円高、対ユーロ円安がプラス要因。3Q累計では、前期比で**対米ドル1円円安、対ユーロ8円円高**となり、**20億円の減益要因**に。

損益為替レート		1Q	2Q	3Q	3Q累計
'13/3期	米ドル	約80円	約79円	約81円	約80円
	ユーロ	約103円	約98円	約105円	約102円
'12/3期	米ドル	約82円	約78円	約77円	約79円
	ユーロ	約117円	約110円	約104円	約110円

(参考) 為替感応度
1円**円安**の場合の影響額(億円)

		'13/3期
営業利益	米ドル ユーロ	△5／年 +2／年

【経常利益・四半期純利益】

- * **2Q末比米ドル9円円安**により、外貨建借入金の円換算額が増加したほか、外貨建債権に決済差額が発生し、計17億円の為替差損を計上。
- * 前期には13億円の為替差益を計上していたため、3Q累計で**30億円の減益要因**となり、**営業段階とあわせると50億円の減益要因**に。

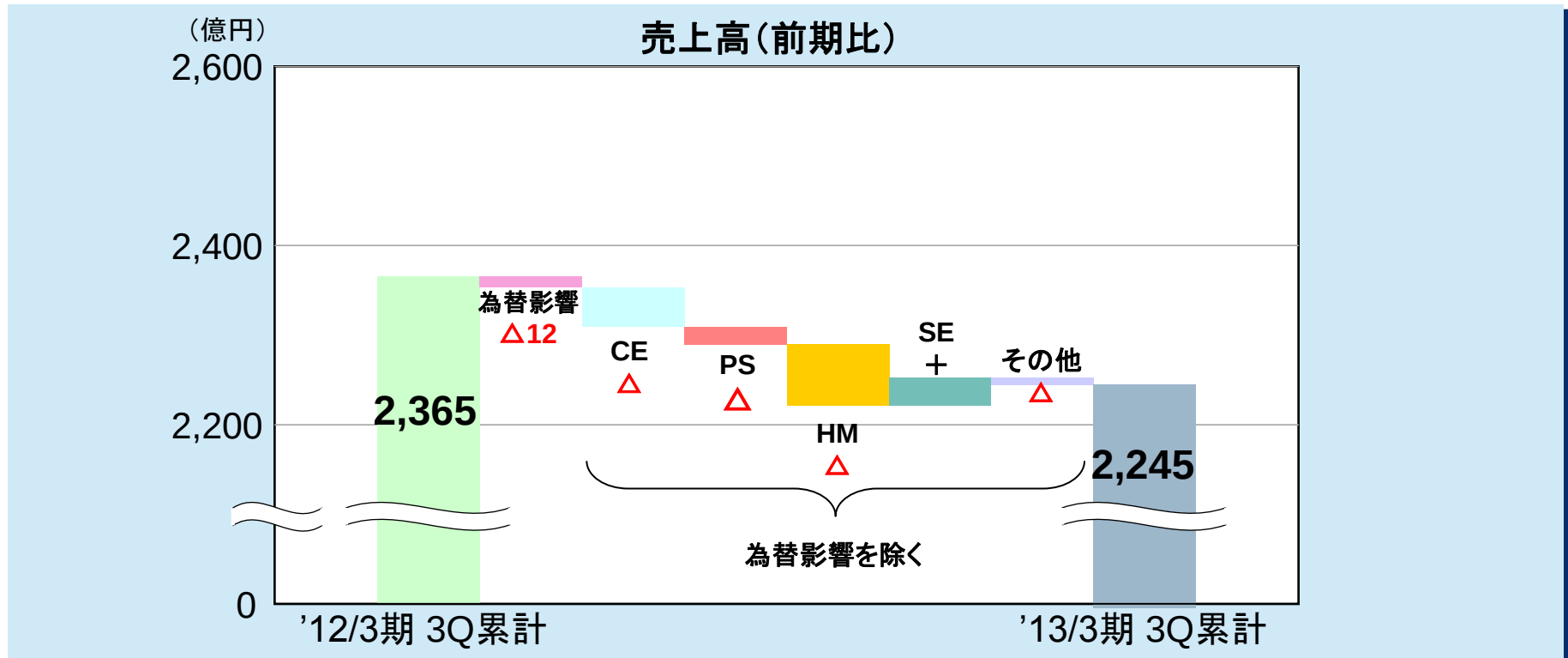
(参考) 為替感応度
1円**円安**の場合の影響額(億円)

期末為替レート		2Q	3Q
'13/3期	米ドル	約78円	約87円
	ユーロ	約100円	約115円

		'13/3期
為替差損益	米ドル ユーロ	△1 0

3Q累計実績: 2,245億円 (前期比△5.1%)

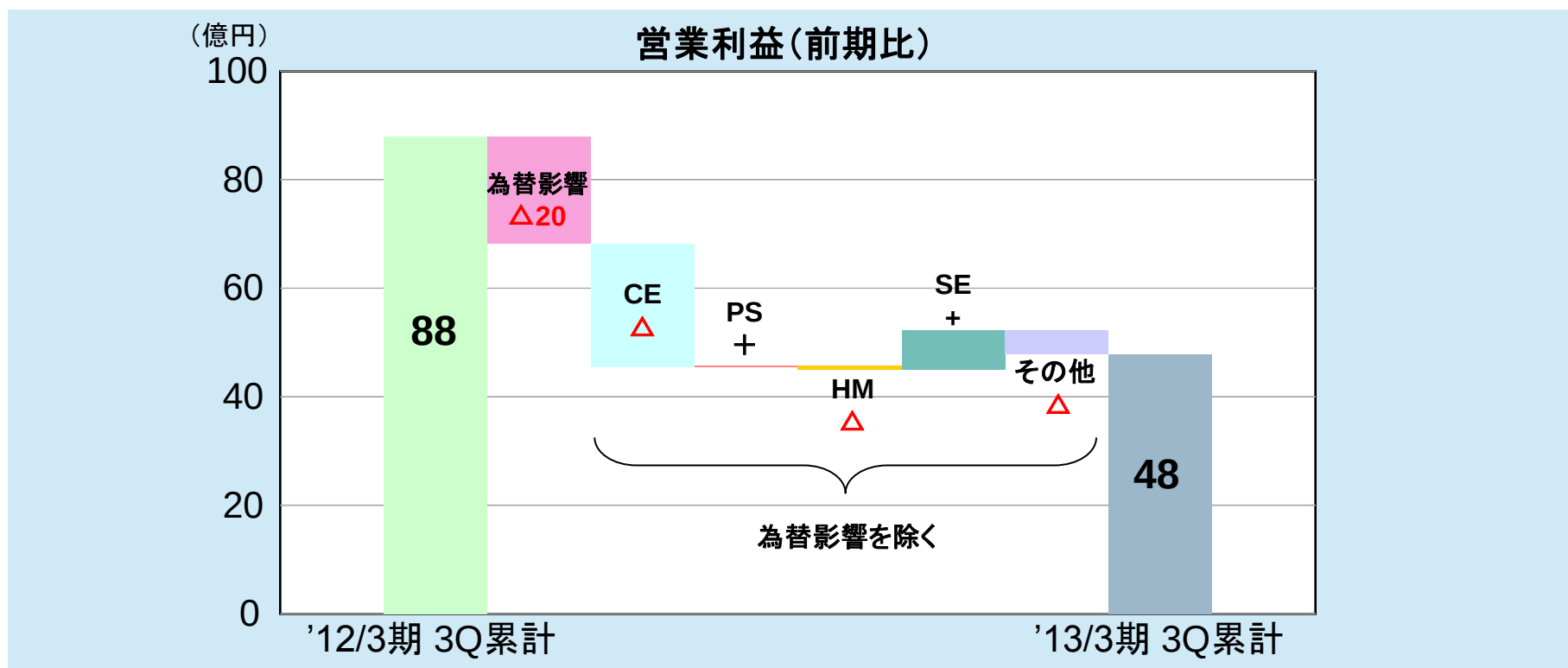
- * 全社売上高は、2Qまでの円高影響、CE・PS・HMの欧州販売減少、HMの一部機種絞り込みの影響などにより減収。
- * SEは1Qよりヒット作品を多数輩出して増収。
CE・PS・HMも北米では堅調に推移。



3Q累計実績:48億円（前期比 △40億円）

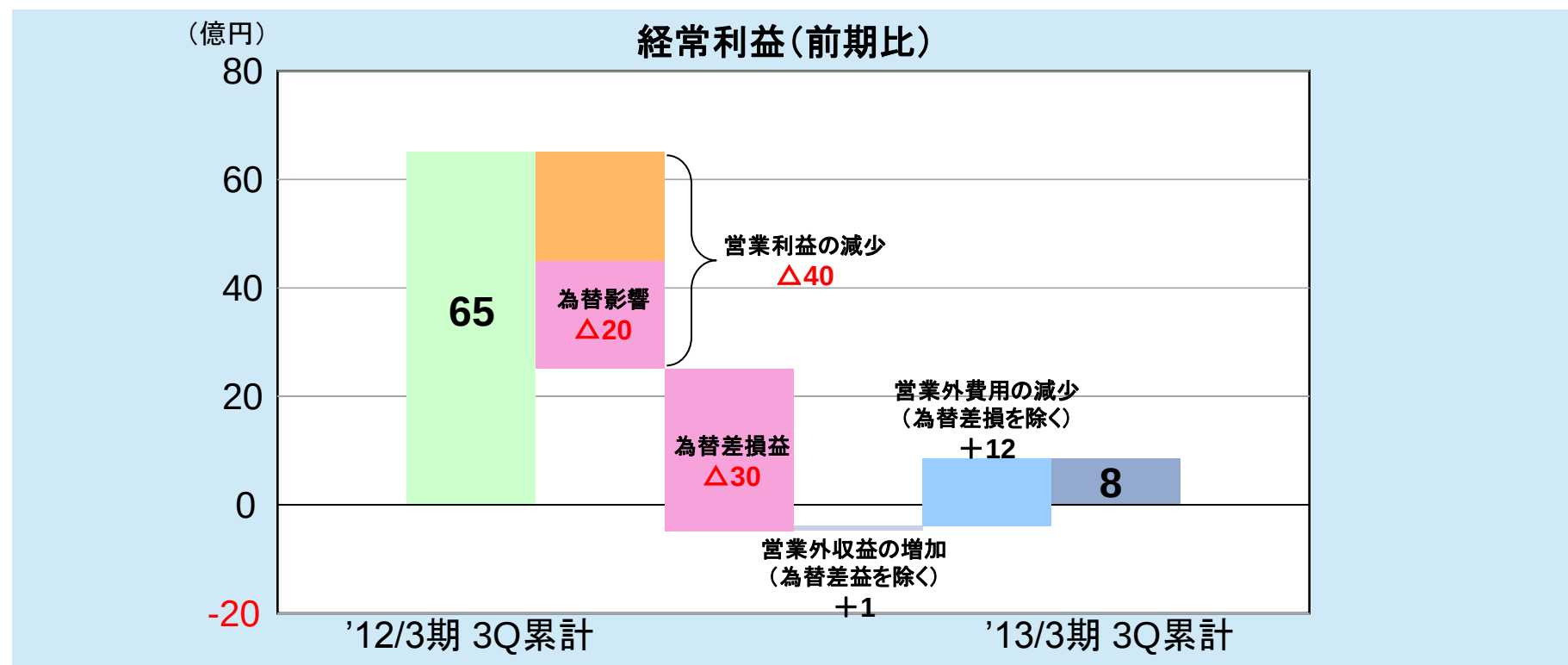
* 全社営業利益は、為替影響（△20億円）、CE・PS・HMの欧州販売減少、CEの国内販売減速などにより減益。

* SEは増益。PSも為替影響を除けば増益。



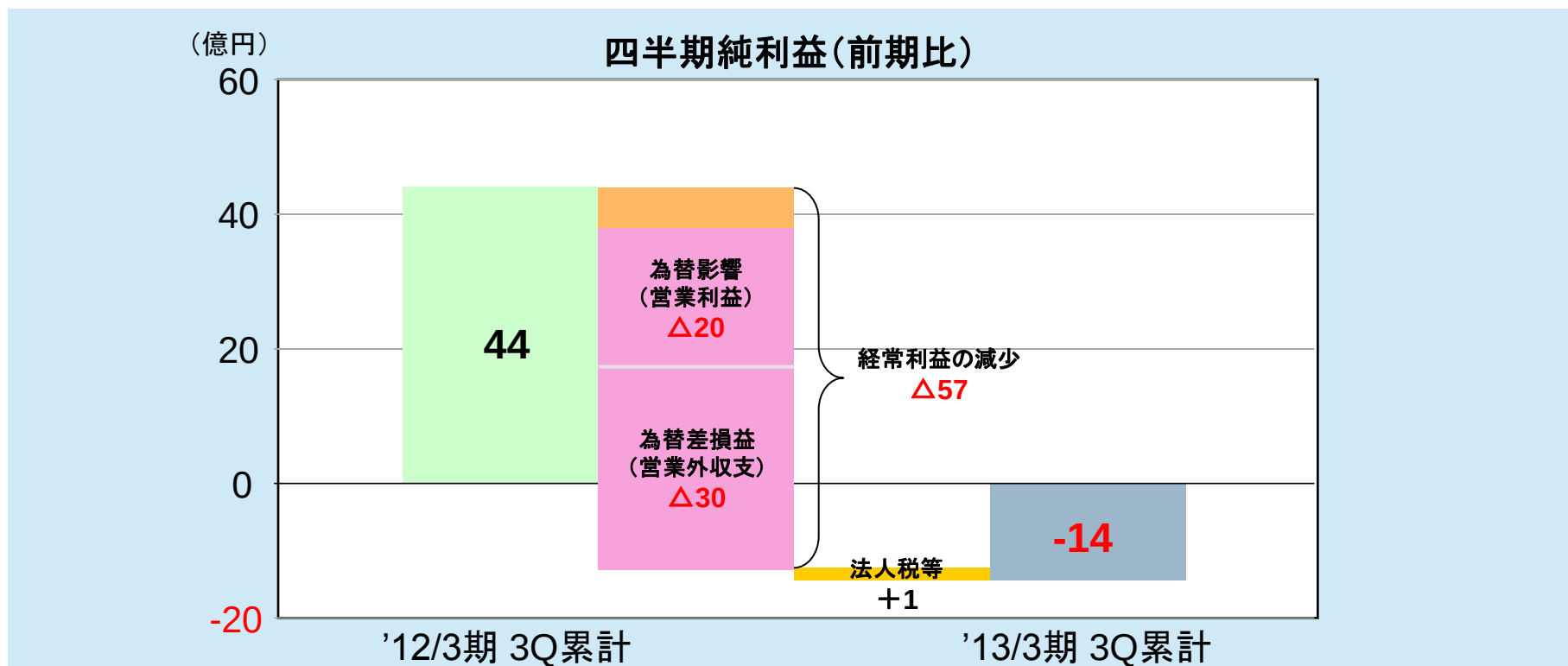
3Q累計実績:8億円（前期比 △57億円）

- * 営業利益の減少、為替差損の発生などにより減益。
- * 借入手数料が減少したほか、シンワの持分法投資利益を計上したが、為替差損益が30億円の減益要因となり、営業外収支は17億円悪化。



3Q累計実績: $\Delta 15$ 億円 (前期比 $\Delta 59$ 億円)

- * 経常利益の減少などにより減益。
- * 特別利益は、固定資産売却益や受取保険金の一部あったものの、海外での雇用構造改革費用や投資有価証券評価損の計上などにより前期並み。
- * 法人税等は約1億円増加。

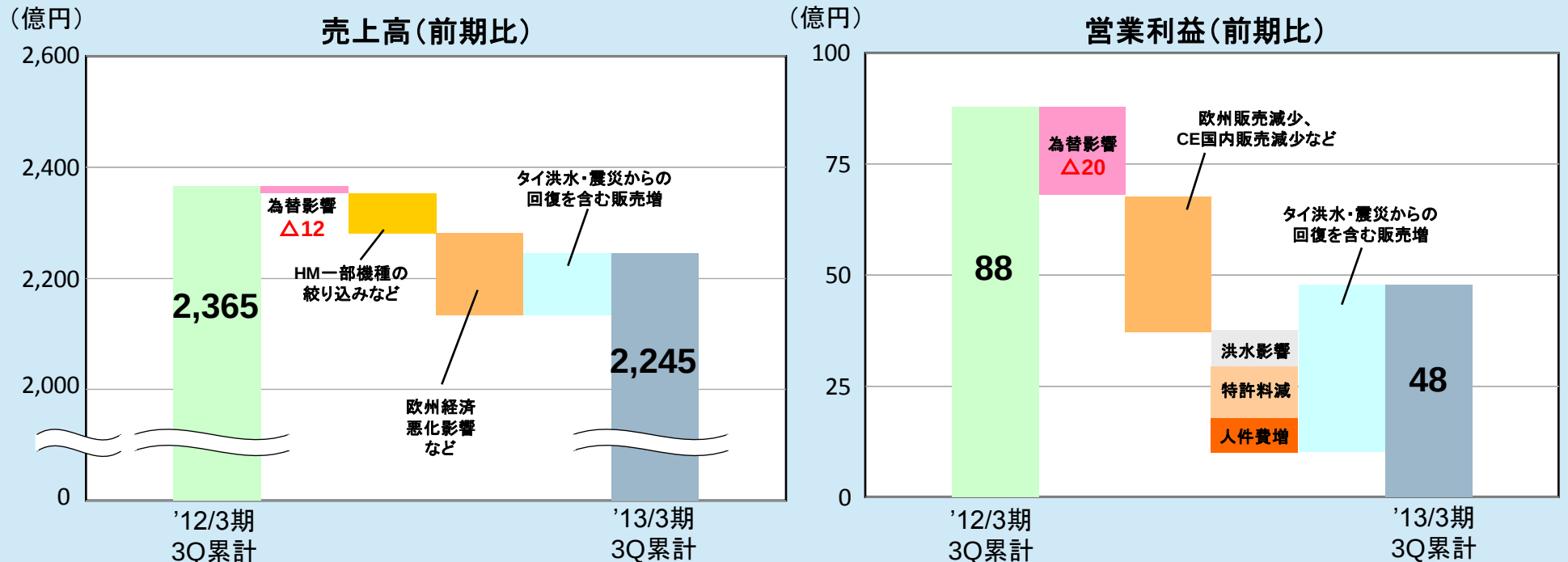


<売上高>

- * 2Qまでの円高のほか、欧州経済の悪化やHMの一部機種絞り込みが主な減収要因。

<営業利益>

- * 為替影響のほか、欧州販売やCE国内販売の減少の影響が主な減益要因。
- * タイ洪水影響、特許料収入の減少、人件費増加などの減益要因は吸収。



セグメント別情報

- * 3Q累計では、SEを除く3事業が減収減益。
- * 3Q(10~12月)では、CE・HMが減収減益となったが、SEは増収増益を持続、PSは増収増益に転換。

(億円)

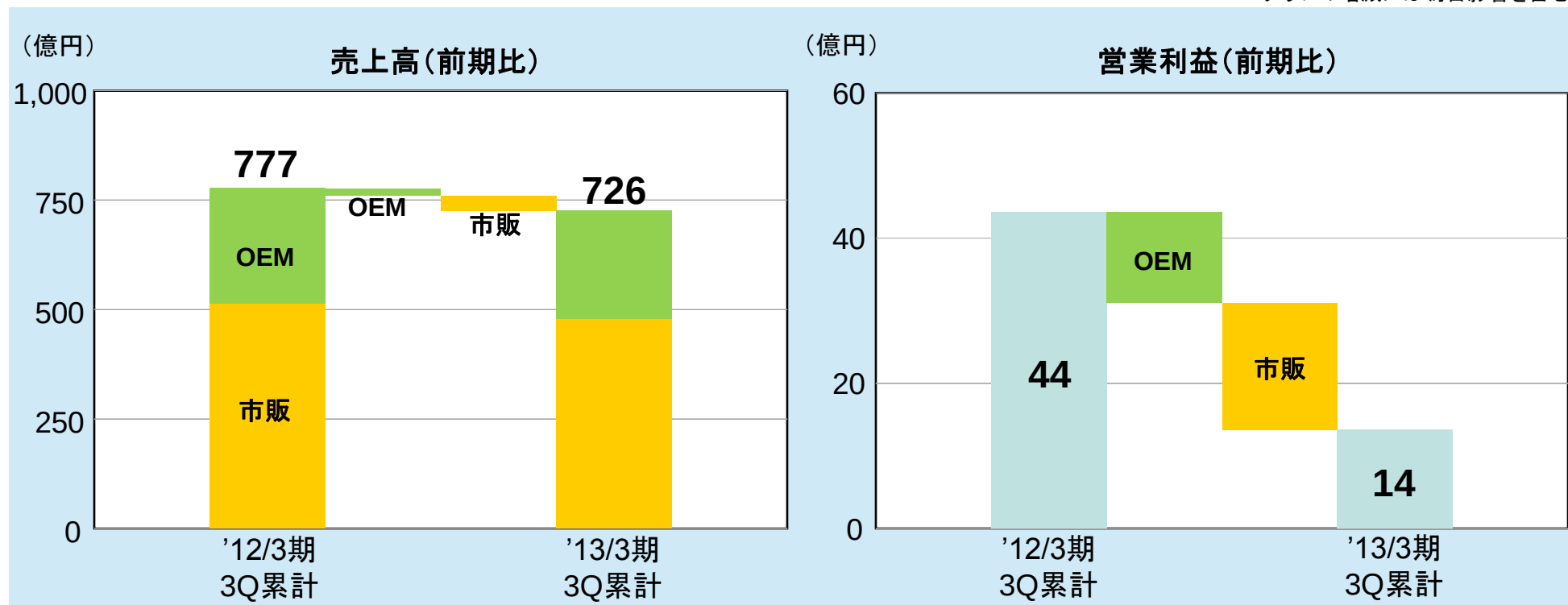
セグメント		第1四半期		第2四半期		第3四半期			第3四半期累計		
		'13/3期	'12/3期	'13/3期	'12/3期	'13/3期	'12/3期	前期比	'13/3期	'12/3期	前期比
CE	売上高	271	266	247	276	208	235	△ 27	726	777	△ 51
	営業利益	15	17	6	21	-8	5	△ 13	14	44	△ 30
PS	売上高	200	216	225	235	226	221	+5	651	671	△ 20
	営業利益	-3	5	10	13	6	-2	+7	12	16	△ 4
HM	売上高	161	187	165	193	195	213	△ 18	521	593	△ 71
	営業利益	1	2	3	4	2	8	△ 7	5	14	△ 9
SE	売上高	89	90	112	90	112	101	+10	313	281	+31
	営業利益	7	5	6	2	6	5	+0	19	12	+7
その他	売上高	10	13	12	13	11	16	△ 5	33	43	△ 10
	営業利益	-0	1	-1	-1	-1	2	△ 3	-2	2	△ 5
合計	売上高	731	772	761	807	752	787	△ 35	2,245	2,365	△ 121
	営業利益	20	30	24	39	4	19	△ 14	48	88	△ 40

3Q累計 売上高:726億円(△6.6%) 営業利益:14億円(△30億円)

市販: 欧州は市場低迷や為替変動、国内は商品構成悪化の影響を受け、3Q損益が悪化。北米は堅調持続、アジアでは販売回復。

OEM: DOPが2Qに減速、CD/DVDメカは欧州向けが市場低迷の影響を受け、3Q損益が悪化。光ピックアップは好調持続。

グラフの増減には為替影響を含む

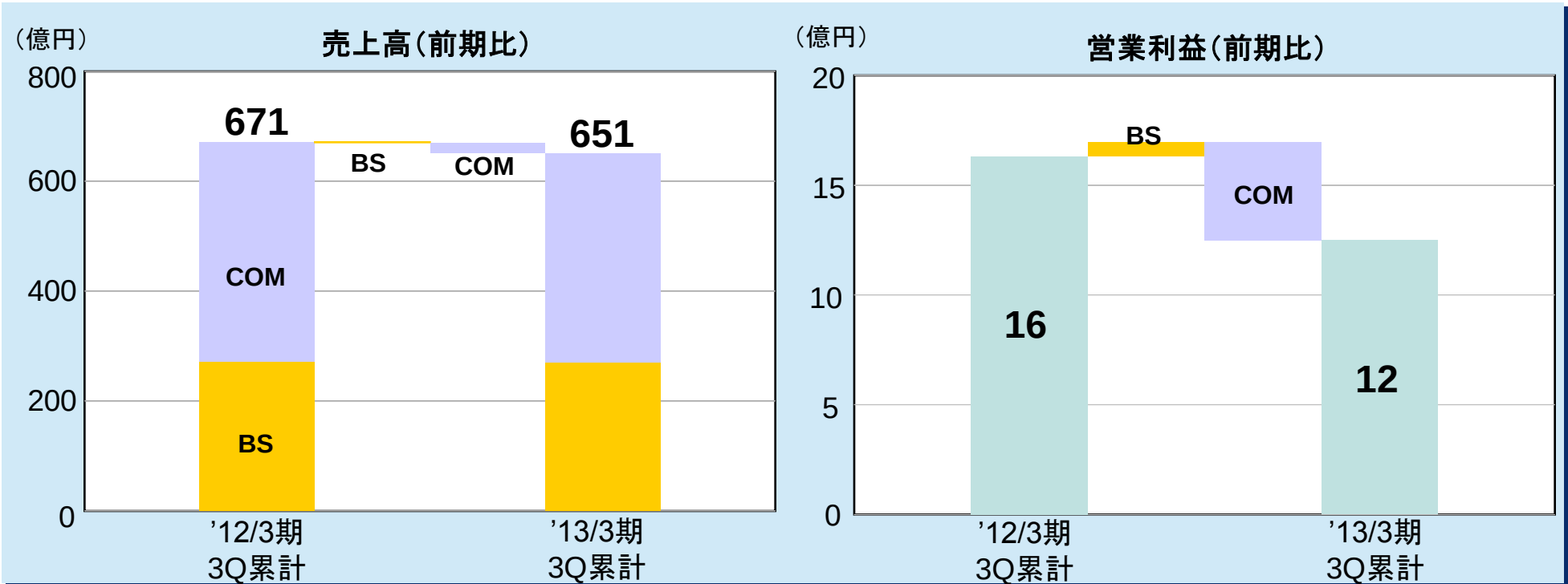


3Q累計 売上高:651億円(△3.0%) 営業利益:12億円(△4億円)

COM: 為替変動や欧州・中国の販売減少などが収益に影響。
北米ではデジタル無線機器の販売が好調持続、国内では新規受注を獲得。

BS: 為替変動やタイ洪水によるコスト増(1Q)はあったものの、
2Q以降はタイ工場が平常化、販売も回復し、損益大幅改善。

グラフの増減には為替影響、洪水影響を含む

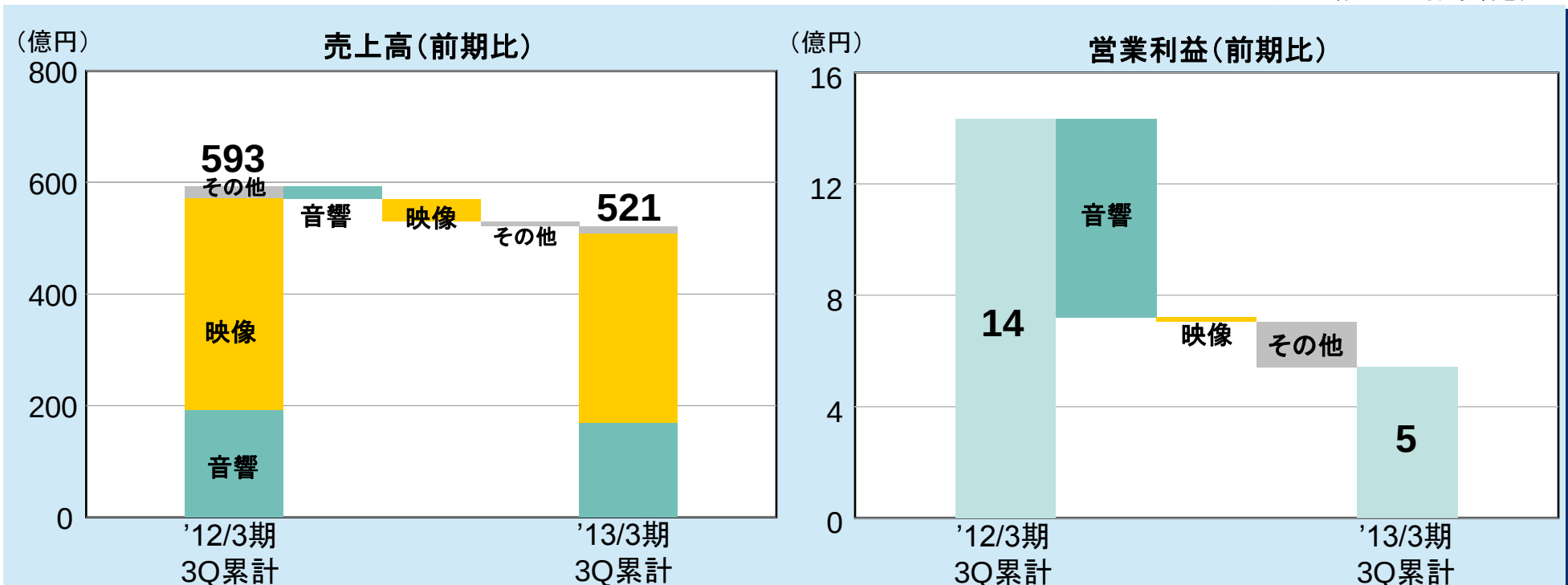


3Q累計 売上高:521億円(△12.0%) 営業利益:5億円(△9億円)

音響: AVアクセサリーが高収益性持続。ホームオーディオは商品構成の改善を進めたが、国内市場縮小や欧州経済悪化の影響を受け、損益悪化。

映像: 欧州経済悪化の影響はあったものの、カムコーダーが商品構成の改善により損益改善。プロジェクター、ディスプレイは収益貢献。

グラフの増減には為替影響を含む

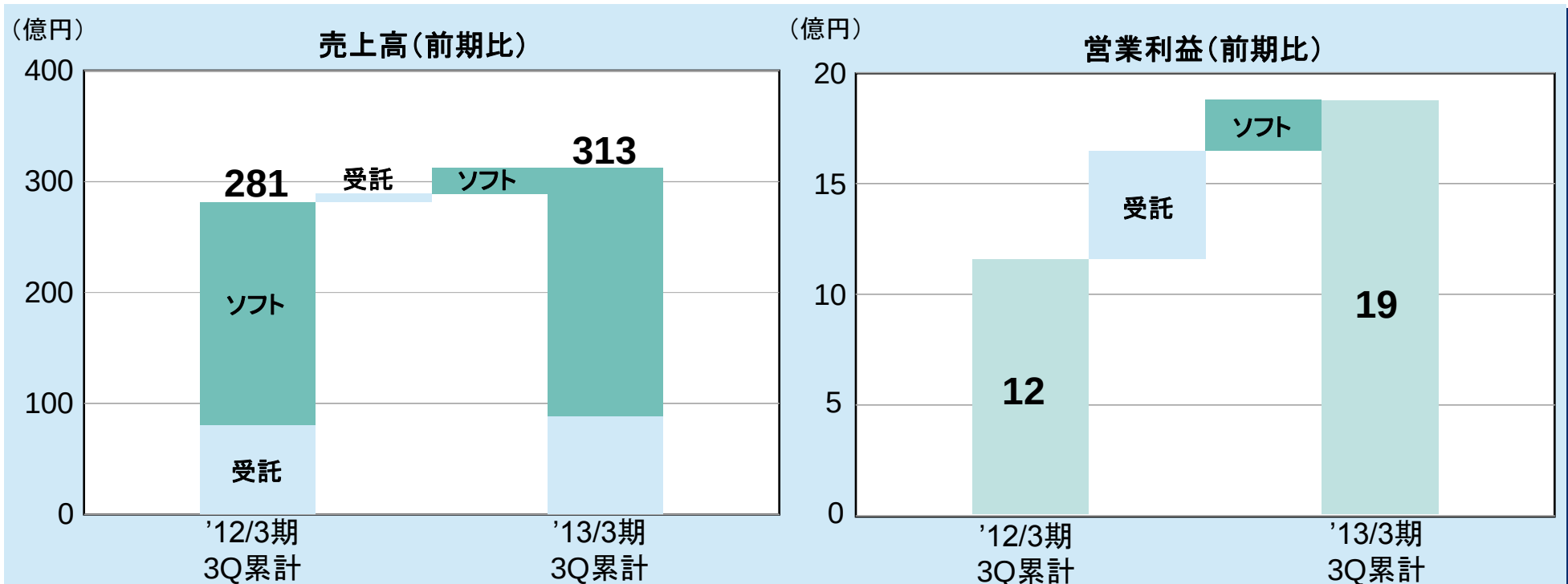


3Q累計 売上高:313億円(+11.1%) 営業利益:19億円(+7億円)

ソフト: テレビ番組主題歌や音楽アルバムなどのヒット作品多数輩出。
アニメ関連は好調持続、権利収入も順調で収益拡大。

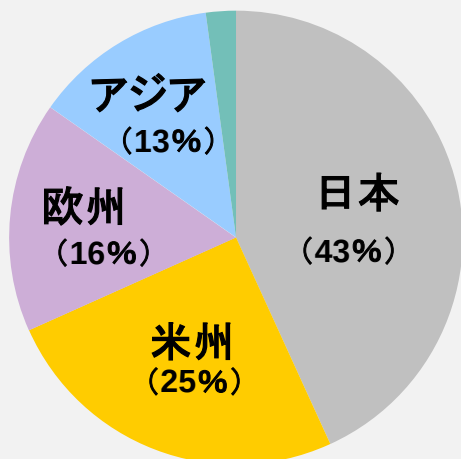
受託: 光ディスク生産の堅調とコスト削減効果により損益改善。

グラフの増減には為替影響を含む

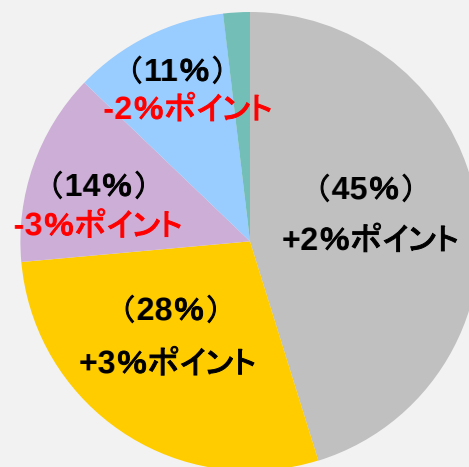


- 【日本】 SE・PSの売上増が、HMの売上減を相殺して前期並み。
CEは1Q、2Qの売上増を3Qの売上減で相殺。
- 【米州】 CEの売上減をHM、PS(COM)の売上増が吸収して増収。
- 【欧州】 CE・HM・PSの売上減により減収。
- 【アジア】 HMの絞り込み、PS(COM)の中国販売減により減収。
CEは売上増。

'12/3期 3Q累計売上高



'13/3期 3Q累計売上高



2013年3月期 第3四半期決算 財政状態

バランスシート

- * 総資産は現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金の減少により△72億円。
- * 負債は未払費用の減少、社債や借入金の減少などにより△87億円。
有利子負債は△68億円、ネットデットは現金及び預金の減少で＋16億円。
- * 利益剰余金は四半期純損失の計上で△21億円、株主資本合計は△21億円。
純資産合計は為替換算調整勘定差額が是正され、＋15億円。
自己資本比率は＋1.4%。

	'12/3期末	'13/3期 3Q末	(億円) 前期末増減
総資産	2,418	2,346	△ 72
有利子負債	924	855	△ 68
(うち長期借入金)	503	62	△ 441
ネットデット	268	284	16
ネットD／Eレシオ(倍)	0.48	0.49	0.01
資本剰余金	459	459	± 0
利益剰余金	242	221	△ 21
純資産	571	586	15
自己資本比率(%)	22.9	24.3	1.4

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー 92億円の資金増(前期比64億円収入増)

＊ 前期の雇用構造改革費用支出が大きく減少したことが主要因

投資活動によるキャッシュ・フロー 113億円の資金減(前期比72億円支出増)

＊ シンワ株式の取得などの資本業務提携など、戦略投資推進が主要因

財務活動によるキャッシュ・フロー 82億円の資金減(前期比73億円支出増)

＊ 社債償還、借入金返済が主要因

当3Q末の現金及び現金同等物 569億円(前期比33億円減)

2013年3月期第4四半期の取り組み

代表取締役社長 兼 CEO 江口 祥一郎

2013年3月期 通期業績予想

＊ 対米ドルでの円安傾向が続いていること、欧州経済低迷が長引いていることなどをふまえ、業績予想を修正。

＊ 4Q想定レートは**米ドル:79円→95円、ユーロ:103円→125円に変更。**

為替感応度是正により、マイナス影響は営業外収支(為替差損の発生)のみ。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
'13/2/1付 修正予想	3,100	100	50	30
'12/11/1付 修正予想	3,200	140	90	70
'12/3期実績	3,209	128	64	60

(参考) 為替感応度
1円**円安**の場合の
影響額(億円)

期初計画 (億円)

		'13/3期
売上高	米ドル ユーロ	+8/年 +3/年
営業利益	米ドル ユーロ	△5/年 +2/年
為替差損益*	米ドル ユーロ	△1 0



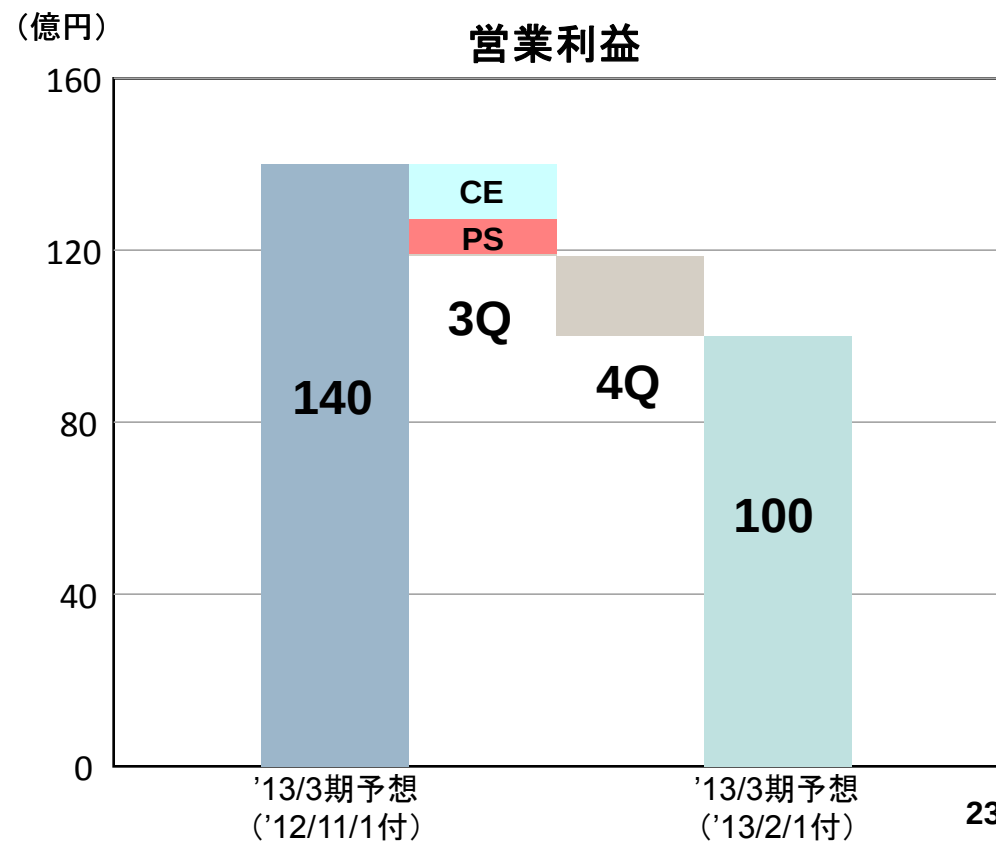
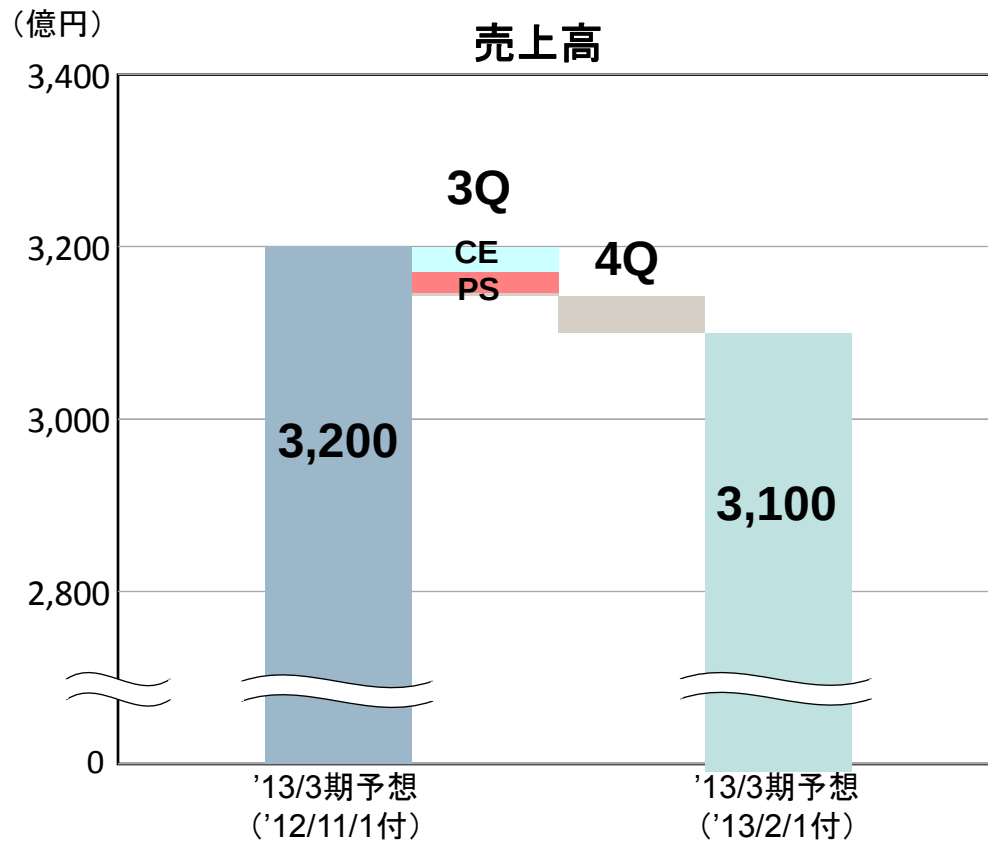
4Q以降 (億円)

		4Q
売上高	米ドル ユーロ	+8/年(+2/四半期) +3/年(+0.8/四半期)
営業利益	米ドル ユーロ	△2/年(△0.5/四半期) +2/年(+0.5/四半期)
為替差損益*	米ドル ユーロ	△1 0

(注) 外貨建借入金の円換算額の増加による為替差損

* 3Q下振れ要因は、**欧州販売不振**に加えて、
CEの国内販売回復遅れ、PSの中国販売回復遅れ。

* 4Q修正計画には、欧州経済の回復遅れや、**CEの国内販売回復遅れ**
などを織り込み。



* 4Qは、CEとPSが年間最大の販売機会を迎え、HMではカムコーダーの
新商品投入期となることから当期最大の売上高・利益を見込む。



海外向け通信ナビ



彩速ナビ
2013年モデル



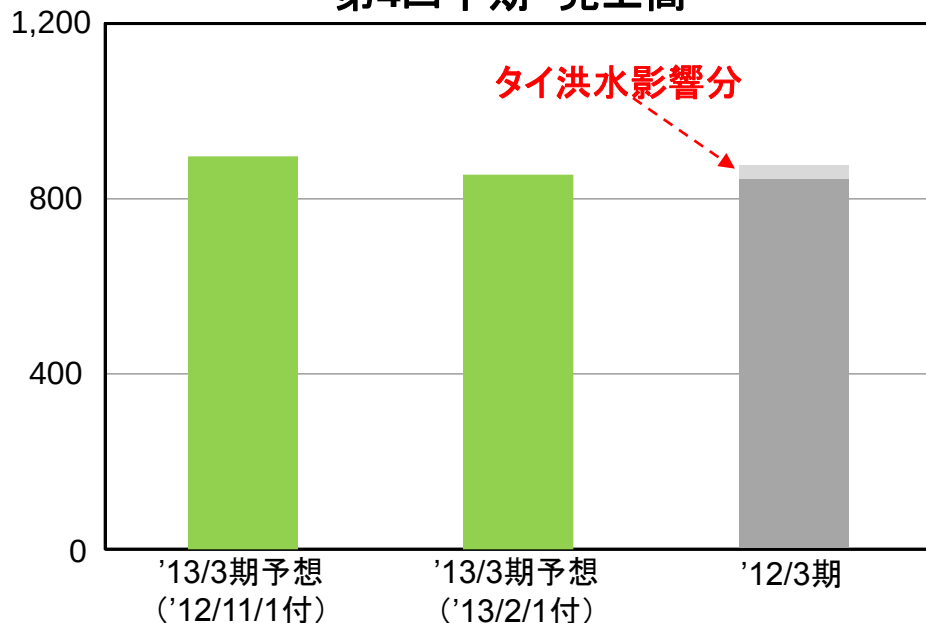
米国向け
アナログ無線機



業務用ビデオカメラ

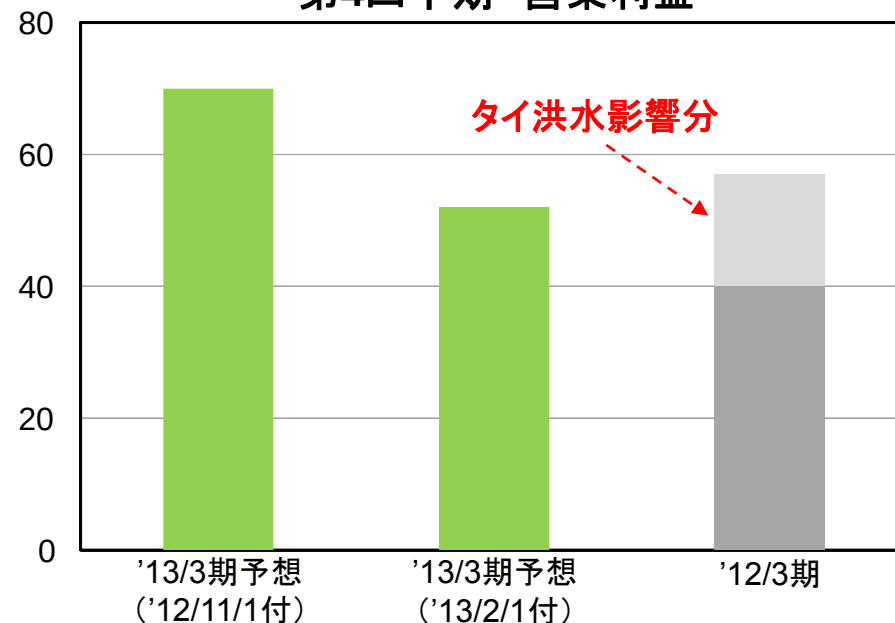
(億円)

第4四半期 売上高



(億円)

第4四半期 営業利益



<配当予想の修正について>

連結業績予想の修正をふまえて、年間配当予想額を前回発表の
1株当たり10円から前期実績と同額の**1株当たり5円**に修正。

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回発表予想 (平成24年11月1日発表)			—	円 銭 10 00	円 銭 10 00
今回修正予想			—	円 銭 5 00	円 銭 5 00
当期実績	—	円 銭 0 00			
前期実績 (平成24年3月期)	—	円 銭 0 00	—	円 銭 5 00	円 銭 5 00

事業別の第4四半期の取り組み

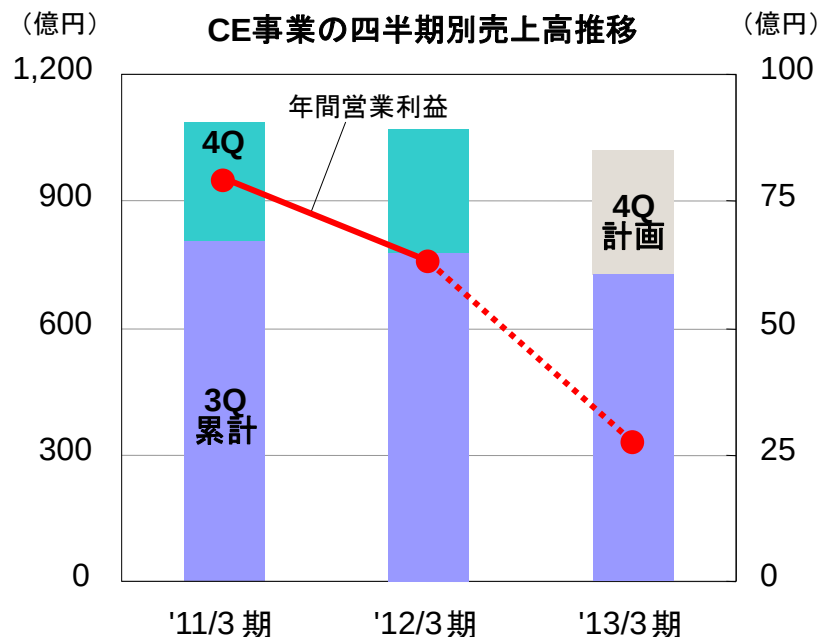
第4四半期の重点施策

【市販分野】

- * 海外: 2013年モデルの市場投入・販売促進
通信ナビをトップエンドとするナビ拡充
スマホ連携を充実させたディスプレイオーディオ拡充
- * 国内: 新「彩速ナビ」の市場投入・販売促進
タッチパネル強化の第3世代投入によるシェアアップ
代理店ルートでの販売拡大

【OEM分野】

- * キャンペーンによるDOPナビの販売拡大



海外向け通信ナビ



MirrorLink対応
ディスプレイオーディオ



「彩速ナビ」
2013年モデル



ディーラーオプション
(DOP) ナビ

第4四半期の重点施策

【COM事業】

- * 北米:P25※の受注拡大とNEXEDGE※、新アナログ普及機のIWCE(無線機器展示会)プロモ
- * アジア:NEXEDGE※、NBR※、地域密着無線機の拡販
- * 国内:放送局・通信事業者向け受注促進

※P25: 公共安全向けデジタル無線機、NEXEDGE: 民間向けデジタル無線機
NBR: 新興国向けアナログ無線機

【BS事業】

- * 国内:監視カメラ、業務用音響、受託ビジネスの受注促進
- * 海外:ビデオカメラ新商品、ローティア監視カメラの受注促進



米国向け
アナログ無線機



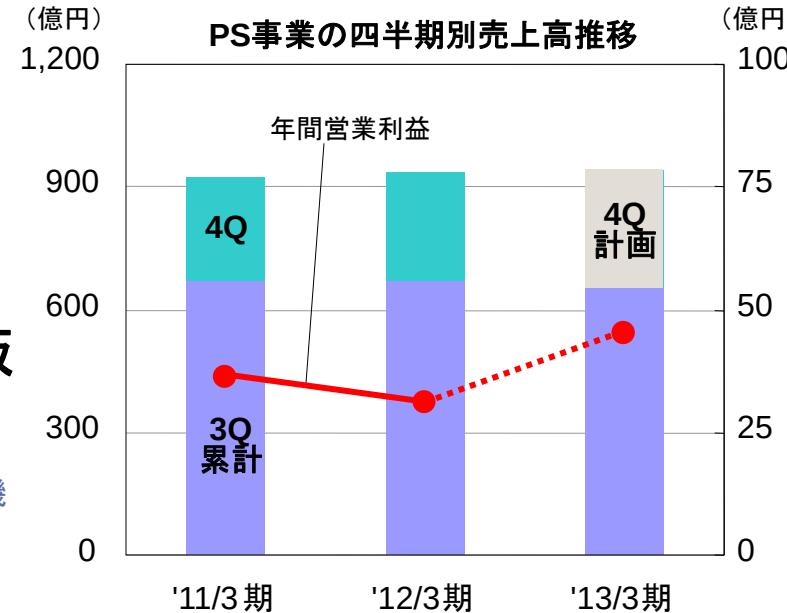
IWCE出展イメージ



業務用ビデオカメラ



フルHDネットワーク
監視カメラ



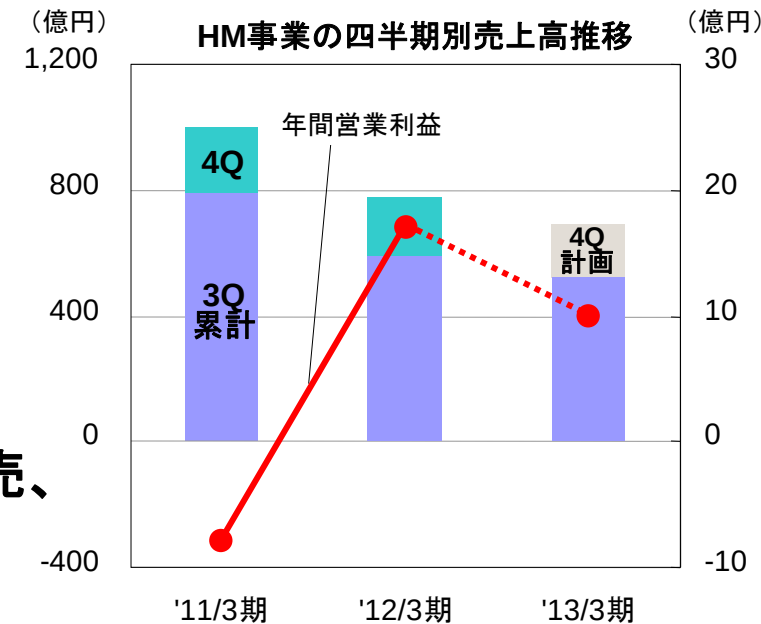
第4四半期の重点施策

【音響事業】

- * AVアクセサリ: 欧米での新商品拡販、新興国専用モデルによる販路開拓、国内での中高級機へのシフト
- * オーディオ: 高付加価値商品シフトによる利益率改善

【映像事業】

- * カムコーダー: 新商品の拡販、スポーツカムの積極販売、新コンセプト商品の投入による事業フィールドの拡大
- * プロジェクター: 業務用4Kプロジェクターの販路拡大、ホームプロジェクターの機能訴求による販売拡大



スポーツカム
ADIXXION「GC-XA1」



4Kプロジェクター



新興国向け
ヘッドホン

第4四半期 期待の作品

桑田 佳祐

3月13日発売

フジテレビドラマ『最高の離婚』主題歌
「Yin Yang」

LIVE TOUR & DOCUMENT FILM

「I LOVE YOU — now & forever —」

THE BAWDIES

1月16日発売

ドラマ「ハングリー」主題歌

「ROCK ME BABY」他を収録 「1-2-3」

サカナクション

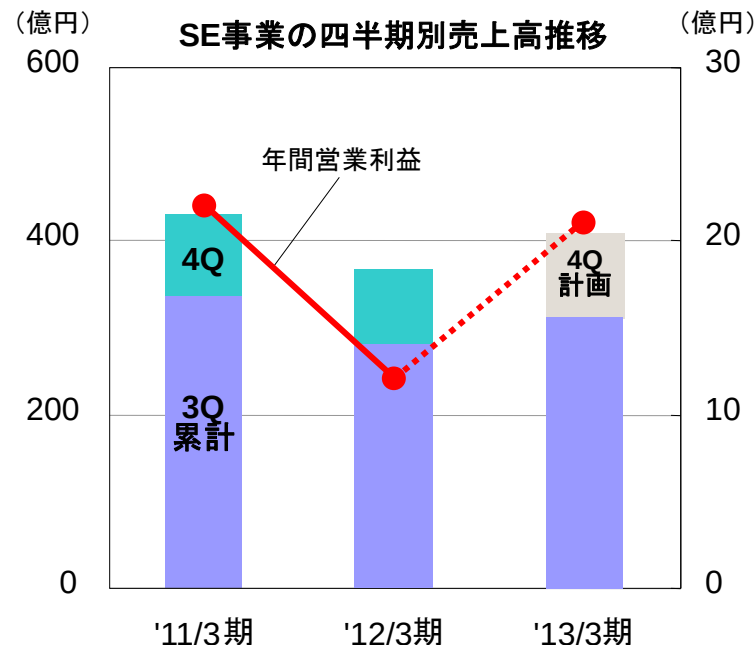
1月23日発売

ドラマ「dinner」主題歌 「ミュージック」

関ジャニ∞

2月20日発売

関ジャニ∞出演DVD & BD 「ドラゴン青年団」



JVC KENWOOD

creates excitement & peace of mind

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場的大幅な変動、(4)資本市場における相場的大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。